

『唐話纂要』に見られる 岡島冠山の善悪観（その一） — 第三巻の常言を中心に —

耿 蘭
高橋 強

目次

1. はじめに
2. 『明心宝鑑』の善悪状況
3. 常言の善悪状況
 - 3.1 『明心宝鑑』から引用した95箇条の善悪状況
 - 3.2 岡島冠山の工夫が見られる条目及びその善悪状況の変化
 - 3.3 『明心宝鑑』以外の作品から引用した条目の善悪状況
4. 常言に見られる岡島冠山の善悪観
 - 4.1 常言と『明心宝鑑』の善悪状況の対照から
 - 4.2 常言の悪に関する条目の性質から
5. 終わりに

1. はじめに

『唐話纂要』の第三巻常言と第六巻和漢奇談は儒教・仏教・道教の中華伝統思想を多く含んでおり、また、その出典は勸善書である『明心宝鑑』、『論語』、『孟子』、『景德伝灯録』、『五灯会元』、『偈頌一百四十一首』、『太上感应篇』と白話小説である『水滸伝』、『西遊記』、『三国志』、『三言二拍』である

ことはこれまでの研究⁽¹⁾によって明らかにし、『明心宝鑑』から岡島冠山が受容した勸善思想を、天と関連づけた勸善思想、宿命的要素への態度、知足安分への態度、儒教の道德への重視、利益・酒・色事への軽蔑、個人・家を単位とする人付き合いの6つの視点から分析を行った。

『明心宝鑑』と『太上感應篇』には、善悪両方の内容が含まれ、特に後者のほうは懲悪の分量が多いにもかかわらず、冠山は和漢奇談の「孫八救人得福」と「徳容行善有報」の二つの物語で孫八と徳容の二人の善行を、度々行ったおかげで、最後は善い報いがあったという点を主な筋として強調しながら、悪行による悪果の点は特に強調していないように思われる。その具体的な分析は今後の課題とし、本論ではまず常言を通して冠山の善悪観について解明していきたい。

2. 『明心宝鑑』の善悪状況

『明心宝鑑』は上巻の継善篇、天理篇、順命篇、孝行篇、正己篇、安分篇、存心篇、戒性篇、勸学篇、訓子篇の10篇と、下巻の省心篇、立教篇、治政篇、治家篇、安義篇、遵礼篇、存信篇、言語篇、交友篇、婦行篇の10篇の計20篇からなっており、そのうち、『唐話纂要』の常言に引用されているのは継善篇、天理篇、順命篇、孝行篇、正己篇、安分篇、存心篇、戒性篇、訓子篇、省心篇、立教篇、治家篇、安義篇の13篇と「新刻前賢切要明心宝鑑」⁽²⁾である。

本章は常言に引用されている篇の善悪状況について分析を行う。具体的には各条目を下記の表一のように善、善悪両方、悪の三種類に分けた。善とは主に人をいい方向に導くため、直接に何をすべきか、何をしたらいいか、あるいは善事をすれば、いい結果や報いがあったり、または処世訓など、人間として上手に生きていくために知っておいたほうがいい自然法則、世間の道

理など正面から直接に庶民を教化し、人々を勧善（善を勧めること）している内容で、その中には儒教、仏教、道教の仁義礼智信、忠孝友悌、天を尊敬する、知足安分などの中華伝統思想が含まれている。悪とはしてはいけないこと、したらよくない、悪果がある懲悪のこと、悪いことを少なくしたらよくなることなど、反面から間接的に人々を勧善している内容である。善悪両方とは正面から直接に勧善している内容もあり、反面から間接的に勧善している内容もある条目である。

表一 常言の出典となる『明心宝鑑』各篇の善悪状況⁽³⁾

以下表二は、全体の善悪状況を分かりやすく把握するために、表一の統計結果を整理してみたものである。

表二 常言の出典となる『明心宝鑑』各篇の善悪状況の統計

篇名	条目数	善			善悪両方			悪		
		条目数	割合	割合順	条目数	割合	割合順	条目数	割合	割合順
継善篇	46	12	26.09%	9	33	71.74%	1	1	2.17%	14
天理篇	19	4	21.05%	13	6	31.58%	9	9	47.37%	1
順命篇	16	9	56.25%	4	3	18.75%	12	4	25.00%	5
孝行篇	19	14	73.68%	1	2	10.53%	14	3	15.79%	10
正己篇	119(1)	28	23.53%	10	47	39.50%	7	44(1)	36.97%	2
安分篇	19	7	36.84%	8	10	52.63%	3	2	10.53%	12
存心篇	83	19	22.89%	11	38	45.78%	5	26	31.33%	3
戒性篇	14	3	21.43%	12	10	71.43%	2	1	7.14%	13
訓子篇	20	4	20.00%	14	10	50.00%	4	6	30.00%	4
省心篇	251(1)	100(1)	39.84%	7	93	37.05%	8	58	23.11%	6
立教篇	17	11	64.71%	2	3	17.65%	13	3	17.65%	9
治家篇	16	9	56.25%	4	4	25.00%	10	3	18.75%	8
安義篇	5	2	40.00%	6	2	40.00%	6	1	20.00%	7
新刻前賢切要明心宝鑑	125(2)	75(1)	60.00%	3	31	24.80%	11	19(1)	15.20%	11
全体	767	296	38.59%		292	38.07%		179	23.34%	

表一の善悪状況を整理してみると、上記の表二になる。統計結果を見る

と、常言に引用されている13篇と「新刻前賢切要明心宝鑑」の全767箇条⁽⁴⁾の中で、全体的に善のみの内容は38.59%で、善悪両方の内容は38.07%で、悪のみの内容は23.34%である。

各篇の善悪状況を見てみると、継善篇の46箇条の中で、善のほうは12箇条あり、その割合は26.09%で、各篇の中では9位に位置しているが、善悪両方のほうは33箇条もあり、割合は71.74%で、各篇の中では最上位に位置している。悪は単なる「若要有前程，莫做没前程。」（明るい未来が欲しければ、それを破壊するようなことはしないでください）の1箇条であり、2.17%という割合で各篇の中で最下位になっている。要するに、継善篇ではやはり主に善悪両方の対照から庶民に勧善を教化しているのである。

次は天理篇である。19箇条の中で、善の条目数は4箇条で、善悪両方のほうは6箇条で、悪のほうは9箇条である。それぞれの割合は21.05%、31.58%、47.37%で、明らかに悪のほうが多く、しかも悪の割合は各篇の中で最上位になっている。この9箇条の内容は7条目の天は何事も知っている、8条目と9条目の天を騙してはいけない、10条目、11条目、15条目、16条目、19条目の悪い行動をしたら、天は必ず許さないで、懲罰をする、18条目は自分に有利で他人に悪いことをしたら、必ず悪報があるという内容で、庶民に悪いことをする悪果を教えることを通して勧善を教化している。

順命篇の16箇条の中で、善、善悪両方、悪の条目数はそれぞれ9箇条、3箇条、4箇条で、それぞれの割合は56.25%、18.75%、25.00%で、割合順は4位、12位、5位である。善悪両方の内容は少ない一方で、善のみと悪のみのほうはわりと各篇の中で高い順に位置している。善のほうは基本的に宿命的な話で、庶民をなだめる内容である。悪のほうは9条目、10条目、11条目の利益に対して心を動揺させたり、不当利益を手に入れたりすべきではないこと、8条目の福を多く求めるべきではないことを強調している。

孝行篇の19箇条の中で、善、善悪両方、悪の条目数はそれぞれ14箇条、2

箇条、3箇条で、割合は73.68%、10.53%、15.79%で、割合順は1位、14位、10位である。善のみと悪のみの条目が多く、善悪両方のほうは少ない。孝行篇の善と関連する条目は人々に親孝行という善行をすべきと勧めるので、その割合は各篇の中で最上位に位置している。また、善悪両方ともある内容の条目の割合は各篇の中で最下位に位置している。悪と関連しているのは4条目の不孝をしてはいけない、18条目の不幸は最大の罪、15条目の子孫を残さないのは最大の罪、11条目と12条目の不幸の人は不孝の子孫を生むという内容である。

正己篇の119箇条の中で、善、善悪両方、悪の条目数はそれぞれ28箇条、47箇条、44箇条で、割合はそれぞれ23.53%、39.50%、36.97%で、割合順は10位、7位、2位である。善のみのほうはわりと下位に位置し、善悪両方の割合は真ん中で、悪のほうは2位に位置して目立っている。7条目、8条目、14条目、15条目、17条目、49条目では他人と交際する際してはいけないこと教えている。19条目、21条目、22条目では過ちの悪行に対して取るべき行動、即ち過ちは改正すべきことを表している。27条目と29条目から32条目までの5箇条と58条目、61条目、62条目、64条目、65条目、104条目、108条目、107条目、113条目は言葉、名誉、金銭などの欲は慎むべきで、淡泊なほうが最もよいと強調している。33条目から36条目までの内容は自分の身心とすべての言動は全て戒めるべきで、特に35条目と36条目では具体的に色事、戦い、怒り、酒などを戒めるべきと明記している。41条目と42条目は他人に知られたくなかったら、最初からするべきではないと教えている。それ以外は大体君子として品格を修養する上であってはいけないことに関連する内容である。

安分篇の19箇条の中で、善、善悪両方、悪の条目数はそれぞれ7箇条、10箇条、2箇条で、割合は36.84%、52.63%、10.53%で、割合順は8位、3位、12位である。善のほうは中位に位置するが、善悪両方のほうは割合が高く、

上位に位置し、悪のほうは下位に位置する。知足安分を教化している安分篇は、主に善のみの条目と善悪両方の対照を通して教化している。悪のほうは13条目の「命合吃粗食，莫思重羅面。」（粗末な食事をする運命だったら、御馳走なんて期待しないことだ）と19条の「子曰：不在其位，不謀其政。」（孔子曰く、自分の職務ではなかったら、それに手を出さないこと）を通し、自分のレベルを超えることはしないようにと強調し、知足安分を教化している。

存心篇の83箇条の中、善、善悪両方、悪の条目数はそれぞれ19箇条、38箇条、26箇条で、割合はそれぞれ22.89%、45.78%、31.33%で、割合順は11位、5位、3位である。善のほうの割合は各篇で下位に位置し、善悪両方と悪の割合は各篇で上位に位置する。悪のほうは正己篇と似ており、富貴貧賤、欲、言葉、忍耐心などを中心にして勸善を教化している。

戒性篇の14箇条の中で、善、善悪両方、悪の条目数はそれぞれ3箇条、10箇条、1箇条で、それぞれの割合は21.43%、71.43%、7.14%で、各篇での割合順は12位、2位、13位である。善と悪の割合は各篇で下位に位置しているが、善悪両方の割合は高い。戒性篇は悩み、怒り、勇み、忍耐心などの人間の性格、情緒に関連する内容で、善悪対照という形を多く使い、良し悪しを説いており最も説得力が強いと思われる。

訓子篇の20箇条の中、善、善悪両方、悪の条目数はそれぞれ4箇条、10箇条、6箇条で、割合は20.00%、50.00%、30.00%で、割合順は14位、4位、4位である。善のほうの割合は各篇で最下位に位置し、残りの二つのほうは上位に位置している。基本的に子孫への教育の大切さや具体的な教育法を示しており、娘と息子を分けて教育すべきで、読書、厳しく教育すること、甘やかさないこと、品格を重んずることを強調している。

省心篇の251箇条の中、善、善悪両方、悪の条目数はそれぞれ100箇条、93箇条、58箇条で、割合は39.84%、37.05%、23.11%で、割合順は7位、8位、6位である。いずれも各篇で中位に位置する。省心篇は各篇の中で条目

数が最も多く、条目の分布もわりと均衡である。悪のほうは悪事をしたら必ず罰されること、人間は外見で判断すべきではないこと、正己篇と存心篇で示した通り、色事、利益、功名などを求めたら悪くなること、是非を論じるのはよくないこと、何事も程々にし、行き過ぎないこと、お客には丁寧接待すべきこと、仁・義・徳・志・礼の重要性、嫉妬心の悪さなどを教化している。

立教篇の17箇条の中、善、善悪両方、悪の条目数はそれぞれ11箇条、3箇条、3箇条で、割合は64.71%、17.65%、17.65%で、割合順は2位、13位、9位である。善のほうの割合は各篇で2番目に高く、善悪両方ある条目の割合は各篇で後ろから二番目に低く、悪のほうは下位に位置する。この篇の内容は主に立身出世に関する内容で、前述の篇と重なる内容もある。例えば、仁・義・孝・礼・道・忠、節儉、勤勉、読書、和順、助け合うなどがあり、一般庶民から君子や官吏までの立身の道を説いている。

治家篇の16箇条の中、善、善悪両方、悪の条目数はそれぞれ9箇条、4箇条、3箇条で、割合は56.25%、25.00%、18.75%で、割合順は4位、10位、8位である。善の条目は圧倒的に多く、各篇の中でも上位に位置する。その他の二つはどちらも普通で、特に目立っていない。この篇の内容は家を治めるのに役立つ内容で、勤労と節儉を強調している一方、夫婦、子孫、家来、婚姻関係などに関連する教訓を示している。悪のほうは結婚する際、お金を論じるのは野蛮であること、大人になった男女の不婚は罪を犯したのと同様であること、子供を甘やかしたら不孝になることを警告している。

安義篇の5箇条の中、善、善悪両方、悪の条目数はそれぞれ2箇条、2箇条、1箇条で、割合は40.00%、40.00%、20.00%で、割合順は6位、6位、7位で、いずれも中位に位置している。この篇は主に夫婦関係、兄弟関係、お金持ちと貧困者の交際の道を説いており、義と恩を強調している。悪のほうは恩に報わないと、人間として成り立たないと強く否定している。

「新刻前賢切要明心宝鑑」の125箇条の中、善、善悪両方、悪の条目数はそれぞれ75箇条、31箇条、19箇条で、割合は60.00%、24.80%、15.20%で、割合順は3位、11位、11位である。善の条目の割合は各篇で3位で高いが、その他の二つのほうは下位に位置している。この部分の内容はそれほどまともでないが、その条目に含まれている教訓は『明心宝鑑』とあまり変わっていないため、その具体的な分析は省略する。

3. 常言の善悪状況

本章は『唐話纂要』第三巻の142箇条の常言を『明心宝鑑』から引用した条目とそれ以外の条目に分け、それぞれの善悪状況を考察する。

3.1 『明心宝鑑』から引用した95箇条の善悪状況

『明心宝鑑』から引用した95箇条の善悪状況を以下の表に整理した。

表三 『明心宝鑑』から引用した95箇条の常言の善悪状況

篇名	内容	善	善悪両方	悪
継善篇	1 44作善降之百祥作不善降之百殃		○	
	2 54積善之家必有餘慶	○		
	3 55積不善之家必有餘殃			○
	4 69善事雖貪惡事莫樂		○	
	5 70善以自益惡以自損		○	
	6 72見善如渴聞惡如讐		○	
	7 74若要前程莫作沒前程			○
	8 67恩義廣施人生何處不相逢讐冤莫結路逢險處難迴避		○	
	9 75於我善者我亦善之於我惡者我亦惡之		○	
	10 76仁慈者壽凶暴者亡		○	
	11 77為子孫作富貴計者十敗其九為人行善方便者其後受惠		○	
	12 71與人方便就是自家方便	○		

	13	78禍福無門惟人自招		○	
	14	79行善之人如春園之艸不見其長日有所增 行惡之人如磨刀之石不見其損日有所虧		○	
	15	57人非義不交物非義不取			○
	16	80不教而善非聖而何教而後善非賢而何教而不善非愚而何		○	
天理篇	1	58謀事在身成事在天	○		
	2	60人間私語天聞若雷暗室虧心・神目如電			○
	3	62人可欺天不可欺			○
	4	63人可瞞天不可瞞			○
	5	61種瓜得瓜種豆得豆		○	
順命篇	1	64萬事不由天計較都是命安排	○		
	2	65臨財無苟得臨難無苟免			○
孝行篇	1	68養子方知父母恩立身方知人辛苦	○		
正己篇	1	68駕馬自受鞭策愚人終受毀唾			○
	2	81寡言則省諱 寡慾則保身			○
	3	83慾多傷身財多累身			○
	4	82貪心害己・利口傷身			○
	5	84酒中不語真君子財上分明大丈夫		○	
	6	85成人不自在自在不成人			○
	7	86自見者不明自是者不彰			○
	8	87含血噴人先污自口			○
	9	88良農不為水旱不耕良賈不為折閱不市			○
	10	89一行有失百行俱傾			○
	11	90借人典籍皆須愛護凡有決壞就即補治	○		
安分篇	1	93知足可樂彊貪則憂		○	
	2	10比上不足比下有餘	○		
存心篇	1	94各人自掃門前雪休管他人屋上霜		○	
	2	95推賢舉能面無慙色	○		
	3	92若要做快活 必須大事化小事小事化沒事	○		
	4	93柔弱護身之本剛強惹禍之由		○	
戒性篇	1	96長短家家有炎涼處處同	○		
訓子篇	1	97至樂莫如讀書至要莫如教子	○		
省心篇	1	14好事不如無	○		

2	98不登山不知天之高也不臨谿不知地之厚也	○		
3	129天有不測之風人有不測之禍	○		
4	56画虎画皮難画骨知人知面不知心	○		
5	38人不可貌相海水不可斗量			○
6	99飽煖思淫慾饑寒起盜心		○	
7	100長思貧難危困自然不驕 每思疾病熬煎並無愁悶	○		
8	101好食色貨利者氣必吝·好功名事業者氣必驕			○
9	102賢人多財損其志·愚人多財益其愚			○
10	103人貧智短 福至心靈		○	
11	104平生不作皺眉事天下應無切齒人			○
12	105有福莫享盡 福盡身貧窮 有勢莫使盡勢盡冤相逢			○
13	107黃金千兩未為貴 得人一語勝千金		○	
14	108小船不堪重載淡徑不宜獨行			○
15	109利可共而不可獨 謀可獨而不可衆 獨利則敗 衆謀則泄		○	
16	110在家不會迎賓客出外方知少主人			○
17	111貧居鬧市無人識富在深山有遠親	○		
18	112寧塞無底坑難塞鼻下橫	○		
19	113天不生無祿之人地不生無根之艸	○		
20	59大富在天小富在勤	○		
21	114成家之兒惜糞如金敗家之子用金如糞		○	
22	115趕人不要趕上 捉賊不如趕賊			○
23	116豪家未必長富貴貧家未必長寂寞		○	
24	118心行慈善何須努力看經 意欲損人空讀如來一藏		○	
25	117遠非道之財戒過度之酒			○
26	119居必擇鄰交必擇友	○		
27	120骨肉貧者莫疎他人富者莫厚			○
28	121身披一縷常思織女之勞日食三餐每念農夫之苦	○		
29	123家貧顯孝子世亂識忠臣	○		
30	122水至清則無魚人至察則無徒			○
31	124輕諾者信必寡面譽者背必非			○
32	125春雨如膏行人惡其泥濘秋月揚輝盜者憎其照鑑		○	
33	126凡大丈夫重名節於泰山輕死生於鴻毛	○		
34	128經目之事猶恐未真 背後之言豈足淡信			○

	35	127不恨自家麻繩短只怨他家古井深			○
	36	136無故而得千金不有大福必有大禍		○	
	37	131酒不醉人人自醉色不迷人自迷	○		
	38	132國之將與實在諫臣 家之將榮必有言爭子	○		
	39	137德微而位尊智小而謀大無禍者鮮矣			○
	40	138金玉者飢不可食寒不可衣自古以穀帛為貴也	○		
	41	134白玉投於淤泥不能汚濕其色君子行於濁地不能染亂其心	○		
	42	133遠水難救近火遠親不如近鄰	○		
	43	32遠親不如近鄰	○		
	44	135清貧常樂濁富多憂		○	
立教篇	1	139貧窮患難親戚相救婚姻死喪隣保相助		○	
治家篇	1	140癡人畏婦賢女敬夫		○	
	2	141婚娶而論財夷虜之道也			○
安義篇	1	142兄弟為手足夫婦如衣服衣服破時更得新手足斷時難在續	○		
新刻前賢 切要明心 寶鑑	1	2 欲要生富貴須下死工夫	○		
	2	1 平常不作虛亏心事，半夜敲門不喫驚			○
	3	56画虎画皮難画骨知人知面不知心	○		
	4	45男大須婚女大須嫁	○		
	5	85成人不自在自在不成人			○
	6	48花無百日紅人無千日好	○		

次に、全体の善悪状況を分かりやすく把握するため、表三の統計結果を下記の表四に整理した。また、対照しやすくするために、『明心宝鑑』のデータも載せた。割合の右側の矢印は増減状況を示している。

表四 『明心宝鑑』から引用した95箇条の善悪状況の一覧表

篇名	書物	条目数	善			善悪両方			悪		
			条目数	割合	割合順	条目数	割合	割合順	条目数	割合	割合順
継善篇	明心宝鑑	46	12	26.09%	9	33	71.74%	1	1	2.17%	14
	唐話纂要	16	2	12.50%↓	11	11	68.75%↓	2	3	18.75%↑	7
天理篇	明心宝鑑	19	4	21.05%	13	6	31.58%	9	9	47.37%	1
	唐話纂要	5	1	20.00%↓	10	1	20.00%↓	7	3	60.00%↑	2

順命篇	明心宝鑑	16	9	56.25%	4	3	18.75%	12	4	25.00%	5
	唐話纂要	2	1	50.00%↓	6	0	0.00%↓		1	50.00%↑	3
孝行篇	明心宝鑑	19	14	73.68%	1	2	10.53%	14	3	15.79%	10
	唐話纂要	1	1	100.00%↑	1	0	0.00%↓		0	0.00%↓	
正己篇	明心宝鑑	119(1)	28	23.53%	10	47	39.50%	7	44(1)	36.97%	2
	唐話纂要	11(1)	1	9.09%↓	12	1	9.09%↓	8	9(1)	81.82%↑	1
安分篇	明心宝鑑	19	7	36.84%	8	10	52.63%	3	2	10.53%	12
	唐話纂要	2	1	50.00%↑	6	1	50.00%↓	3	0	0.00%↓	
存心篇	明心宝鑑	83	19	22.89%	11	38	45.78%	5	26	31.33%	3
	唐話纂要	4	2	50.00%↑	6	2	50.00%↑	3	0	0.00%↓	
戒性篇	明心宝鑑	14	3	21.43%	12	10	71.43%	2	1	7.14%	13
	唐話纂要	1	1	100.00%↑	1	0	0.00%↓		0	0.00%↓	
訓子篇	明心宝鑑	20	4	20.00%	14	10	50.00%	4	6	30.00%	4
	唐話纂要	1	1	100.00%↑	1	0	0.00%↓		0	0.00%↓	
省心篇	明心宝鑑	251(1)	100(1)	39.84%	7	93	37.05%	8	58	23.11%	6
	唐話纂要	44(1)	18(1)	40.91%↑	9	12	27.27%↓	6	14	31.82%↑	6
立教篇	明心宝鑑	17	11	64.71%	2	3	17.65%	13	3	17.65%	9
	唐話纂要	1	0	0.00%↓		1	100.00%↑	1	0	0.00%↓	
治家篇	明心宝鑑	16	9	56.25%	4	4	25.00%	10	3	18.75%	8
	唐話纂要	2	0	0.00%↓		1	50.00%↑	3	1	50.00%↑	3
安義篇	明心宝鑑	5	2	40.00%	6	2	40.00%	6	1	20.00%	7
	唐話纂要	1	1	100.00%↑	1	0	0.00%↓		0	0.00%↓	
新刻前賢 切要明心 宝鑑	明心宝鑑	125(2)	75(1)	60.00%	3	31	24.80%	11	19(1)	15.20%	11
	唐話纂要	6(2)	4(1)	66.67%↑	5	0	0.00%↓		2(1)	33.33%↑	5
全体	明心宝鑑	767	296	38.59%		292	38.07%		179	23.34%	
	唐話纂要	95	34	35.79%↓		28	29.47%↓		33	34.74%↑	

上記の表から、常言の善悪状況と『明心宝鑑』を対照してみると、その増減状況は下記の3組6つのパターンに分けられる。

第一組：①善と善悪両方の条目の割合が減少し、悪の条目の割合が増加する。継善篇、天理篇、順命篇、正己篇の四篇の34箇条はこのパターンに属する。②は①と正反対で、善と善悪両方の条目の割合が増加し、悪の条目の割合が減少する。このパターンは存心篇の一篇のみであり、4箇条ある。

第二組：③善の割合が増加し、残りの二つが減少する。孝行篇、安分篇、

戒性篇、訓子篇、安義篇の五篇の6箇条はこのパターンに属する。④は③と正反対で、善の割合が減少し、残りの二つが増加する。治家篇の2箇条はこのパターンに属する。

第三組：⑤善と悪の条目の割合が増加し、善悪両方とも割合が減少する。省心篇と「新刻前賢切要明心宝鑑」の50箇条はこのパターンに属する。

⑥善と悪の条目の割合が減少し、善悪両方ともある条目の割合が増加する。立教篇の1箇条はこのパターンに属する。

次に『明心宝鑑』とそこから引用した95箇条の常言の全体的な増減状況を比較してみると、その結果はパターン①と同じで、善と善悪両方の条目の割合がそれぞれ38.59%から35.79%へ、38.07%から29.47%へ減少し、悪の条目の割合が23.34%から34.74%へ増加している。

なお、冠山の善悪観を把握するために、善の内容を含める善と善悪両方の内容は合計62箇条で、65.26%を占めており、悪の内容を含める善悪両方と悪の内容は合計61箇条で、64.21%を占めている。それに対して、『明心宝鑑』の善と関連する内容は76.66%を占め、悪と関連する内容は61.41%を占めている。

即ち、『明心宝鑑』のほうの善悪状況は単独の38.59%対23.34%からみても、合計の76.66%対61.41%からみても、善のほうの内容は明らかにその割合は高いと言える。その一方、『明心宝鑑』から引用した95箇条目の善悪状況は単独の35.79%対34.74%で、合計のほうは善の65.26%対64.21%で、善悪のどちらでも大体同じと言える。

以上の分析から、岡島冠山は『明心宝鑑』から引用した内容の善悪状況は各篇で異なる趨勢が見られるが、全体的に善と悪を同じぐらい引用しており、正面からの直接勧善と反面からの間接勧善を均衡に捉えているように見える。

3.2 岡島冠山の工夫が見られる条目及びその善悪状況の変化

本節は『明心宝鑑』から引用したが、その善悪の趨勢は『明心宝鑑』と異なる常言の条目について分析を行い、冠山が工夫を凝らしているところを考察する。下記の表五はそれらを整理したものである。

表五 『明心宝鑑』の善悪状況と異なる常言

篇名	順番	常言	善	善悪 両方	悪	『明心宝鑑』の原文	性質
繼善篇	1	54積善之家必有餘慶	○			8《易》雲：「積善之家必有餘慶，積不善之家必有餘殃。」	善 悪 両 方
	2	55積不善之家必有餘殃			○		
	3	57人非義不交物非義不取			○	43康節邵先生誠子孫曰：“上品之人，不教而善；中品之人，教而後善；下品之人，教亦不善。不教而善，非聖而何？教而後善，非賢而何？教亦不善，非愚而何？是知善也者，吉之謂也。不善也者，凶之謂也。吉也者，目不觀非禮之色，耳不聽非禮之聲，口不道非禮之言，足不踐非禮之地。人非善不交，物非義不取。親賢如就芝蘭，避惡如畏蛇蠍。或曰：不謂之吉人，則吾不信也。凶也者，語言詭譎，動止陰險，好利飾非，貪淫樂禍，嫉良善如仇隙，犯刑憲如飲食，小則殞身滅性，大則覆宗絕嗣。或曰：不謂之凶人，則吾不信也。《傳》有之曰：‘吉人為善，惟日不足。凶人為不善，亦惟日不足。’汝等欲為吉人乎？欲為凶人乎？”	
正己篇	4	87含血噴人先污自口			○	85太公曰：“欲量他人，先須自量。傷人之語，還是自傷。含血噴人，先污自口。”	
存心篇	5	95推賢舉能面無慙色	○			52《說苑》雲：“推賢舉能，掩惡揚善。”	
	6	92若要做快活 必須大事化小事小事化沒事	○			80會做快活人，凡事莫生事。會做快活人，省事莫惹事。會做快活人，大事化小事。會做快活人，小事化沒事。	
戒性篇	7	96長短家家有炎涼處處同	○			6 愚濁生嗔怒，皆因理不通。休添心上焰，只作耳邊風。長短家家有，炎涼處處同。是非無實相，究竟終成空。	
省心篇	8	14好事不如無	○			13恩愛生煩惱，追隨大丈夫。庭前生瑞草，好事不如無。	
	9	98不登山不知天之高也不臨谿不知地之厚也	○			15荀子曰：“不登高山，不知天之高也；不臨深溪，不知地之厚也；不聞先王之遺言，不知學問之大也。”	

省心篇	10	105有福莫享盡 福盡身貧窮 有勢莫使盡勢盡 冤相逢		○	75有福莫享盡，福盡身貧窮。有勢莫倚盡，勢盡冤相逢。福宜常自惜，勢宜常自恭。人生驕與奢，有始多無終。
	11	117遠非道之財戒過度之酒		○	150神宗皇帝禦制：“遠非道之財，戒過度之酒。居必擇鄰，交必擇友。嫉妒勿起於心，讒言勿宣於口。骨肉貧者莫疏，他人富者莫厚。克己以勤儉為先，愛眾以謙和為首。常思已往之非，每念未來之咎。若依朕之斯言，治家國而可久。”
	12	119居必擇鄰交必擇友	○		
	13	120骨肉貧者莫疎他人富者莫厚		○	
	14	121身披一縷常思織女之勞日食三餐每念農夫之苦		○	151高宗皇帝禦制：“一星之火，能燒萬頃之薪。半句非言，折盡平生之德。身披一縷，常思織女之勞。日食三餐，每念農夫之苦。苟貪嫉妒，終無十載安康。積善存仁，必有榮華後裔。福緣善慶，多因積德而生。入聖超凡，盡是真實而得。”

上記の表五からみると、『明心宝鑑』の善悪状況と異なる常言は合計14箇条あるが、その原文は11箇条である。それは『明心宝鑑』の一部の原文は非常に長く、冠山は『唐話纂要』を編纂した際、工夫してその中から一部だけ引用し、あるいはその長い原文を数条に分けて引用したからである。そのため、常言の善悪状況は原文と異なるようになっている。

表五からもわかるように、非常に興味深いことであるが、両方の性質が異なる『明心宝鑑』の11箇条の原文の性質はいずれも善悪両方の内容がある条目である。

1条目と2条目の「54積善之家必有餘慶」と「55積不善之家必有餘殃」は元々一条である内容を二つに分けたため、元々善悪両方の性質が単独の善と悪になったわけである。

3条目の「57人非義不交物非義不取」は非常に長い原文から一部だけ選出したため、元々の善悪両方の意味を持つ文から不義の人間と交際するな、不義のものを取るなという悪事への忠告になったため、性質も悪になったのである。4条目の「87含血噴人先汚自口」も3条目と同じように、元々の善悪両方の意味を持つ文から選出した部分は悪と関連する内容で、性質が変化し

たのである。10条目、11条目、13条目も同じなので、具体的な分析は省略する。

5条目の「95推賢舉能面無慙色」は存心篇の52条目の「《説苑》雲：「推賢舉能，掩惡揚善。」と49条目の「心不負人，面無慙色。」から一部ずつ取って組み合わせたため、元々の善悪両方ともある内容から単なる善と関連する内容になったのである。

6条目の「92若要做快活 必須大事化小事小事化沒事」は冠山が長い原文をまとめてその肝心の内容を選出し、悪と関連する「莫生事」「莫惹事」の内容を削除したため、その性質も善悪両方から善になった。

7条目の「96長短家家有炎涼處處同」は3条目、4条目と同じタイプであるが、ただ7条目を選出したのは道理で、善の内容であるため、性質は原文の善悪両方から善になった。8条目、9条目、12条目、14条目も同じなので、具体的な分析は省略する。

3.3 『明心宝鑑』以外の作品から引用した条目の善悪状況

前述2節は『明心宝鑑』から引用した95箇条の条目の善悪状況を分析したが、本節は残りの『明心宝鑑』以外の作品から引用した47箇条の善悪状況を分析する。具体的な内容は下記の表六にまとめた。

表六 『明心宝鑑』以外の作品から引用した条目の善悪状況

順番	内容	善	善悪両方	悪
1	3 把官路當人情			○
2	4 借花供佛			○
3	5 家醜不可外揚			○
4	6 猫頭上子魚			○
5	7 只有錦上添花那得雪中送炭			○
6	8 蝦蟆在天井裡想天鵝肉喫			○
7	9 水中撈月			○
8	11 三人出外・小的兒苦	○		
9	12 行路防跌喫飯防噎			○

10	13寧可信其有不可信其無		○	
11	15好事不出門・惡事傳千里		○	
12	16走三家不如坐一家		○	
13	17過則勿憚改		○	
14	18好漢惜好漢猩猩惜猩猩	○		
15	19物悲其類	○		
16	20兔死狐悲	○		
17	21一不做二不休	○		
18	22單絲難線孤掌不鳴			○
19	23如漆似膠	○		
20	24如魚似水	○		
21	25虎不食伏肉			○
22	26虎不生狗			○
23	27不怕官只怕管	○		
24	28官無三日禁			○
25	29官不容針。私通車馬		○	
26	30有錢可以通神	○		
27	31公人見錢如蒼虫龜見血			○
28	33送君千里終須一別	○		
29	34一日拜師終身為父	○		
30	35殺人須要見血	○		
31	36見讐人分外眼明	○		
32	37家貧不是貧路貧愁殺人		○	
33	39二虎相聞必傷其一	○		
34	40寡不可敵衆			○
35	41養將千日用將一朝	○		
36	42良將擇主而仕，良鳥擇樹而棲	○		
37	43三十六計走為上計	○		
38	46有緣千里易相逢無緣對面難相見		○	
39	47賊走閉門			○
40	49以酒勸人原無惡意	○		
41	50一日不見莫作舊時看			○
42	51好事大家知	○		
43	52富者冤之叢			○
44	53大丈夫一言駟馬難追	○		
45	73画餅不充餓			○
46	106凡事無難學只怕無心學		○	

47	130方今之人悪死凶而樂不仁是猶惡醉而強酒			○
合計数		20	8	19
占める割合		42.55%	17.02%	40.43%

表六からみると、『明心宝鑑』以外の作品から引用した47箇条の中で、善の内容と関連するのは20箇条あり、占める割合は42.55%で、善悪両方ともある内容の条目は8箇条あり、占める割合は17.02%で、悪の内容と関連するのは19箇条あり、占める割合は40.43%である。善と悪の内容はほぼ同じ割合で、それぞれ4割強で、善悪両方の内容は2割弱である。『明心宝鑑』から引用した95箇条も善と悪の割合が高く、善悪両方の割合が低いいため、同じ傾向が見える。

4. 常言に見られる岡島冠山の善悪観

4.1 常言と『明心宝鑑』の善悪状況の対照から

第三章で142箇条の常言を『明心宝鑑』から引用した95箇条とそれ以外の47箇条の二つに分け、それぞれの善悪状況を考察したが、本節ではそのデータをまとめ、『明心宝鑑』とも対照しながら常言に見られる岡島冠山の善悪観を全体的に把握していく。具体的な結果は下記の表七となる。

表七 常言と『明心宝鑑』の善悪状況の対照表

内容	条目数	善		善悪両方		悪	
		条目数	割合	条目数	割合	条目数	割合
①明心宝鑑	767	296	38.59%	292	38.07%	179	23.34%
②明心宝鑑が出典となる常言	95	34	35.79%	28	29.47%	33	34.74%
③その他が出典となる常言	47	20	42.55%	8	17.02%	19	40.43%
④常言全体	142	54	38.03%	36	25.35%	52	36.62%

表七から分かるように、善の条目数からみると、『明心宝鑑』の割合は38.59%で、そこから引用した95箇条の常言の割合は35.79%で、やや減少し

ているが、ほかの作品から引用した条目数は42.55%、上昇している。また、善悪両方からみると、『明心宝鑑』の割合は38.07%で、そこから引用した95箇条の常言の割合は29.47%で、減少しているが、ほかの作品から引用した条目数は17.02%で、それより更に少なくなっている。次に、悪からみると、『明心宝鑑』の割合は23.34%で、そこから引用した95箇条の常言の割合は34.74%で、ほかの作品から引用した条目は40.43%で、更に増えている。

即ち、表七の①②③の統計結果を見ると、『明心宝鑑』に比べると、常言のほうは善悪両方の条目の割合が減少しているが、悪の条目の割合が増加している。

そして、表七の①④のデータを対照すると、善の割合は『明心宝鑑』が38.59%で常言の38.03%と、ほぼ同じである。善悪両方は38.07%対25.35%で、常言のほうが低い。悪の割合は23.34%から36.62%で、常言のほうが高い。

また、それぞれの善、善悪両方、悪の分布状況を見ると、『明心宝鑑』は次第に減少し、善を強調している傾向が見える。常言は出典作品に関わらず、部分的にも全体的にも単なる善と悪の割合がほぼ同じでしかも高く、善悪両方の割合は低い。

以上の分析から、『明心宝鑑』が善を強調している傾向に対し、常言は悪の割合が上昇し、善とほぼ同じようになり、善と悪を均衡に捉える姿勢を示している。

4.2 常言の悪に関する条目の性質から

第二節でも述べた通り、本論の悪に分類した条目は、してはいけない又はしたらよくないこと、悪行による悪果のこと、悪いことを少なくしたらよくなること等、反面から間接的に人々に勧善を教化している内容であるが、この悪についての認識は所謂「勧善懲悪」の悪事に対する懲罰より広範であ

る。

では、常言の悪に関する内容はどのような性質なのか、本節ではこれについて考察を行う。常言の52箇条の悪に関連する内容を下記の表八にその性質を分類してまとめた。

表八 常言の悪に関する条目の性質

順番	内容	しないとよくなる	してはいけない	悪行による悪果
1	1 平常不作虚亏心事，半夜敲门不喫驚	○		
2	3 把官路當人情		○	
3	5 家醜不可外揚		○	
4	6 猫頭上子魚		○	
5	8 蝦蟆在天井裡想天鵝肉喫		○	
6	9 水中捞月		○	
7	22 單絲難線孤掌不鳴		○	
8	25 虎不食伏肉		○	
9	26 虎不生狗		○	
10	28 官無三日禁		○	
11	31 公人見錢如蒼虫見血		○	
12	38 人不可貌相海水不可斗量		○	
13	40 寡不可敵衆		○	
14	47 賊走閉門		○	
15	4 借花供佛		○	
16	50 一日不見莫作舊時看		○	
17	52 富者冤之叢			○
18	55 積不善之家必有餘殃			○
19	57 人非義不交物非義不取		○	
20	60 人間私語天聞若雷暗室虚亏心・神目如電		○	
21	62 人可欺天不可欺		○	
22	63 人可瞞天不可瞞		○	
23	65 臨財無苟得臨難無苟免		○	
24	68 駕馬自受鞭策愚人終受毀唾			○
25	73 画餅不充餓		○	
26	74 若要前程莫作沒前程		○	
27	7 只有錦上添花那得雪中送炭		○	
28	81 寡言則省言苟 寡慾則保身	○		

29	82貪心害己・利口傷身			○
30	83慾多傷身財多累身			○
31	85成人不自在自在不成人			○
32	86自見者不明自是者不彰			○
33	87含血噴人先汚自口			○
34	88良農不為水旱不耕良賈不為折閱不市		○	
35	89一行有失百行俱傾			○
36	101好食色貨利者氣必吝・好功名事業者氣必驕			○
37	102賢人多財損其志・愚人多財益其愚			○
38	104平生不作皺眉事天下應無切齒人	○		
39	105有福莫享盡 福盡身貧窮 有勢莫使盡勢盡冤相逢			○
40	108小船不堪重載淡徑不宜獨行		○	
41	110在家不會迎賓客出外方知少主人			○
42	115趕人不要趕上 捉賊不如趕賊		○	
43	117遠非道之財戒過度之酒		○	
44	120骨肉貧者莫疎他人富者莫厚		○	
45	122水至清則無魚人至察則無徒		○	
46	124輕諾者信必寡面譽者背必非		○	
47	127不恨自家麻繩短只怨他家古井淡		○	
48	128經目之事猶恐未真 背後之言豈足淡信		○	
49	12行路防跌喫飯防噎		○	
50	130方今之人惡死凶而樂不仁是猶惡醉而強酒		○	
51	137德微而位尊智小而謀大無禍者鮮矣			○
52	141婚娶而論財夷虜之道也		○	
合計数		3	35	14
悪の中で占める割合		5.77%	67.31%	26.92%
常言全体の中で占める割合		2.11%	24.65%	9.86%

上記の表から、常言の52箇条の悪に関連する条目の中で、悪いことをしないと善くなる条目は単なる3箇条で、悪の中で5.77%を占め、常言全体の中で2.11%の僅かな存在である。また、善くないことやしてはいけないことの条目は35箇条もあり、悪の中で圧倒的に多い67.31%をしめ、常言全体の中でも24.65%の割合を占めている。悪行による悪果、即ち懲悪の条目は14箇条で、悪の中では26.92%を占め、常言全体では9.86%を占め、それほど強調していないようである。

即ち、常言の悪に関する条目の性質はほとんど、善くないことやしてはいけないことを教えており、懲罰とかは主な内容ではなく、冠山の意図はやはりこれらの条目を通し、学習者や読者の品質向上を求めていると考えられる。

5. 終わりに

本論は主として『明心宝鑑』と対照させながら『唐話纂要』常言の善悪状況を分析し考察した。その結果、岡島冠山は『唐話纂要』の常言を編纂した際、『明心宝鑑』と異なる善悪観を持って編纂したことが判明した。

善、善悪両方、悪の分布状況からみると、『明心宝鑑』は次第に減少し、特に悪の内容は単なる2割程度で、善を強調している傾向が見えるが、常言は出典作品に関わらず、部分的にも全体的にも単なる善と悪の割合がほぼ同じでしかも高く、善悪両方の割合が低い。即ち、『明心宝鑑』が善を強調している傾向に対し、常言は悪の割合が上昇し、善とほぼ同じようになり、善と悪を均衡に捉える姿勢を示している。

なお、常言が悪の割合が高いのは、決して懲悪を強調しているのではなく、基本的には善くないことやしてはいけないことを教示しており、懲悪の存在は常言全体の1割弱である。

今回は常言が示している岡島冠山の善悪観を考察したが、今後は和漢奇談からみる善悪観についても分析、考察していきたい。

注

- (1) 耿 蘭 高橋 強 (2021) 『『唐話纂要』「常言」からみる岡島冠山の勸善思想 — 「常言」の出典『明心宝鑑』の内容を中心に —』創大中国論集 (24)、pp1-34
- (2) 具体的な引用状況は前掲『『唐話纂要』「常言」からみる岡島冠山の勸善思想 — 「常言」の出典『明心宝鑑』の内容を中心に —』pp1-34

- (3) 本表は https://pan.baidu.com/s/1jOem_Qx1I8V8cCuLTCmJXg 参照（パスワード：1234）。本表の『明心宝鑑』20篇の内容は下記の書物を参考している。（明）范立本、『明心宝鑑』、東方出版社、2014年6月。この書物は番号が付いており、便宜上でのこの版本を引用した。また、「新刻前賢切要心宝鑑」は下記の書物から引用している。李朝全点校／訳注、『明心宝鑑』珍藏本、華芸出版社、2007年、pp251-257
- (4) 合計すると769条となっているが、それは括弧がついている正己篇と省心篇の各1条は「新刻前賢切要明心宝鑑」の2条と重なっているため、正確には767条である。

参考文献

岡島冠山（1716）『唐話纂要』巻1-6 日本橋（江府）：出雲寺和泉掾

耿 蘭 高橋 強（2021）『『唐話纂要』「常言」からみる岡島冠山の勸善思想——「常言」の出典『明心宝鑑』の内容を中心に——』創大中国論集（24）、pp 1-34

范立本（明）（2014）『明心宝鑑』、東方出版社

李朝全点校／訳注（2007）『明心宝鑑』珍藏本、華芸出版社

